

第3回西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議 会議録（ダイジェスト版）

令和2年11月20日、西脇市民会館（中ホール）において、「第3回西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議」を開催しました。

会議では、第2回検討会議の意見整理、「適正な学習環境」の協議に向けた小中学校の現状報告や「求められる教育推進への対応」の説明を行った後、委員が各グループに分かれて「望ましい学習・生活集団」や「望ましい指導体制」について意見交換を行いました。

第2回検討会議の意見整理

と き : 令和2年8月28日
と ころ : 播磨内陸生活文化総合センター

第2回検討会議では、新たな時代に適応していくための「必要な資質・能力」や「教育のしくみ」について、委員から様々な意見が出されました。

その意見を次のとおり整理し、今後の協議に反映していくことを確認しました。

1 本市の子どもたちに、創造社会に求められる資質・能力を培うため、望ましい学習環境を創造的に整備する。

～委員からの意見～

- 人としての基礎・基本（根の部分）、心の教育
 - 人間力（人間的魅力）
 - 自然・社会に係る体験（実体験・協働体験）
 - 多様性への対応力
 - 情報化に対応できる力（GIGAスクール）
 - ふるさとへの愛着心（郷土愛、地域文化、誇りの伝承）
 - 自己肯定感、自己有用感
 - 基礎的読解力の育成
 - 変化に対応する力
 - 自尊感情・社会性の育成
 - コミュニケーション力
 - グローバル化に対応する力
- 等

2 本市独自の特色ある教育推進、学習や指導の一貫性・効率性を高め、より高度・専門化する教育内容や多様化する個への対応、多機能化する学校組織の系統性ある運営のため、小中一貫教育に係る研究を推進する。

～委員からの意見～

- 子どもにとってより良い教育システム（子ども目線）
 - 量的確保（児童生徒・教職員・専門職・地域スタッフ等）
→学校の楽しさ・安全・健康・課題解決・充実感・円滑運営・疲弊回避・クラス替え可能・過度な小規模化回避…など
 - 一貫性・効率性（効果定着・徹底）
 - 弾力性（変化に対応）・独自性（にしわきならでは）
 - 多様性への対応（最適化された個への対応）
 - 子どもの居場所（個別への対応）
 - 人間力のある教員養成、教員育成環境
 - 多様な学びの場における学びのシステム
 - 新たな教育制度導入拡大
 - クラス替えが可能な規模
- 等



ワークショップでの意見

- テーマ：① 望ましい学習・生活集団規模について
(学習活動・人間関係・集団活動・人間形成 等)
- ② 望ましい指導体制について
(学校運営・学習・生活指導・資質向上・安全 等)



小学校の「教科担任制」には利点と弱点がある。
ある程度の学校規模がなければ、教員の負担軽減の効果が期待できない。
1学年全教科で教科担任制を導入している学校では、1学級の事例を全学級で共有し、全担任で課題解決に向かうことができるという利点もある。

地域として、児童生徒数の少ない学校も残していきたいという思いがある。



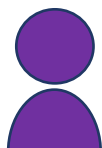
西脇市には様々な規模の学校があり、特化してもよいのでは？
例えば、A校は学力向上を目指す特色を掲げ、B校は少人数で人間関係に根差した教育を掲げ、市民が選択できるようになればよいのでは…。

1クラスの人数は、15人から25人程度が望ましい。
1学年に複数のクラスがあって、クラス替えができることが望ましい。



オンライン授業の導入や、教員が学校の垣根を超えて複数校を掛け持つことはできないか？

教員の負担がかたよってしまう学校規模は適正ではない。
教員が余裕を持って研鑽を積めるような集団・学習規模が必要だ。



児童生徒数が極端に減少した場合には、子どもたちの学習の質の確保が非常に難しいのではないかと。
児童生徒数の大幅減少に直面している地区、現在のところそうでない地区においても、この問題を直視し、適正な環境規模を考えていくべきではないかと。

…その他、貴重な意見がたくさん出されました。

西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議事務局
(西脇市教育委員会 学習環境規模適正化推進室)

西脇市西脇771-7 ☎0795-22-3111(代)

